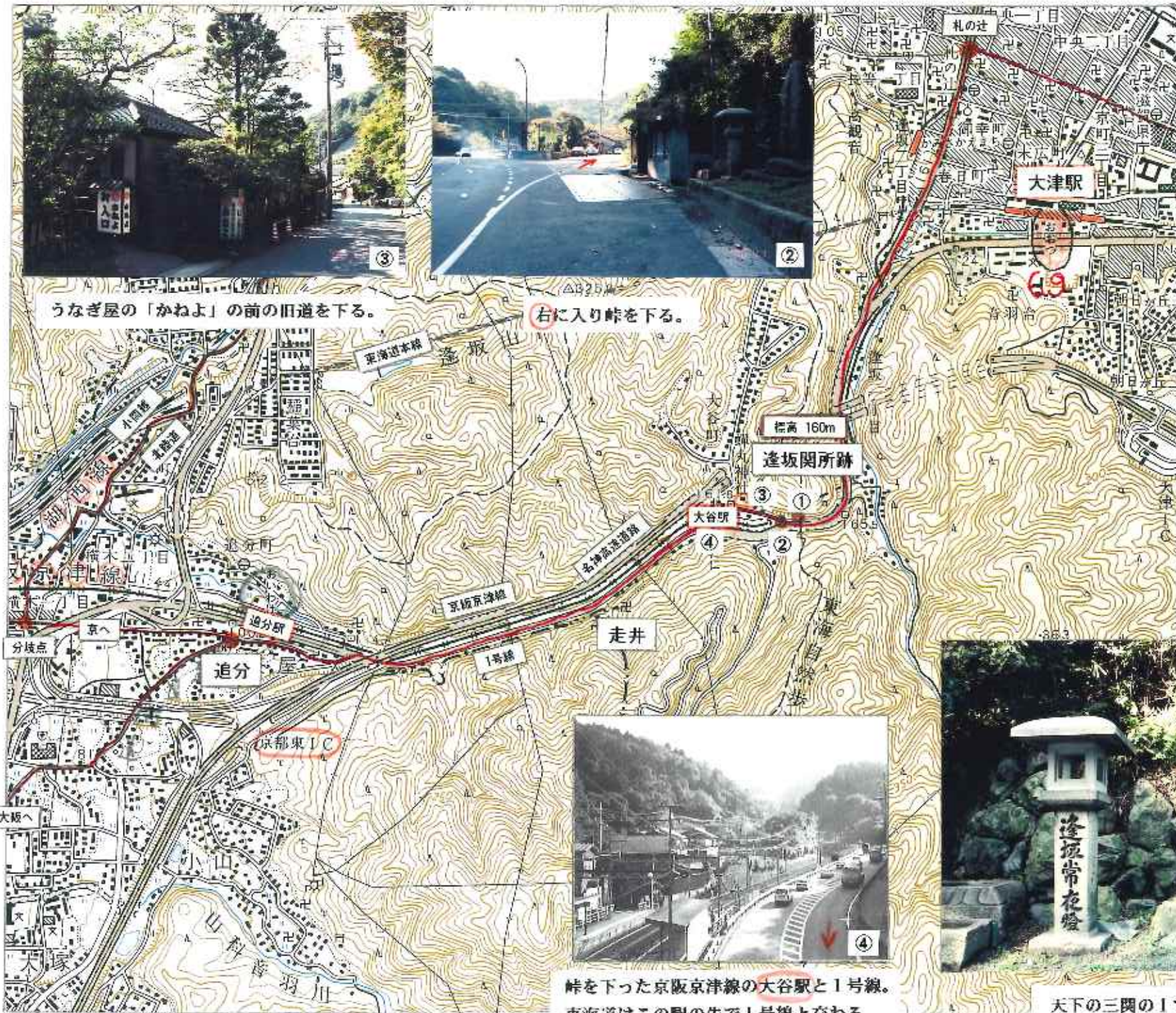


日本最大の動脈となつて いた峠道

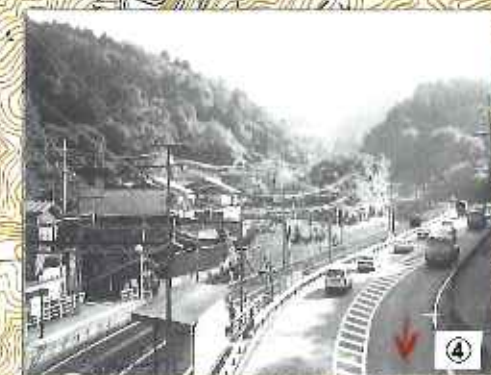
山城(京都府)と近江(滋賀県)の境界をなす逢坂山を越える道。古代以来のわが国最大の幹線であり、多くの和歌にも詠まれた。

東海道逢坂越え



うなぎ屋の「かねよ」の前の旧道を下る。

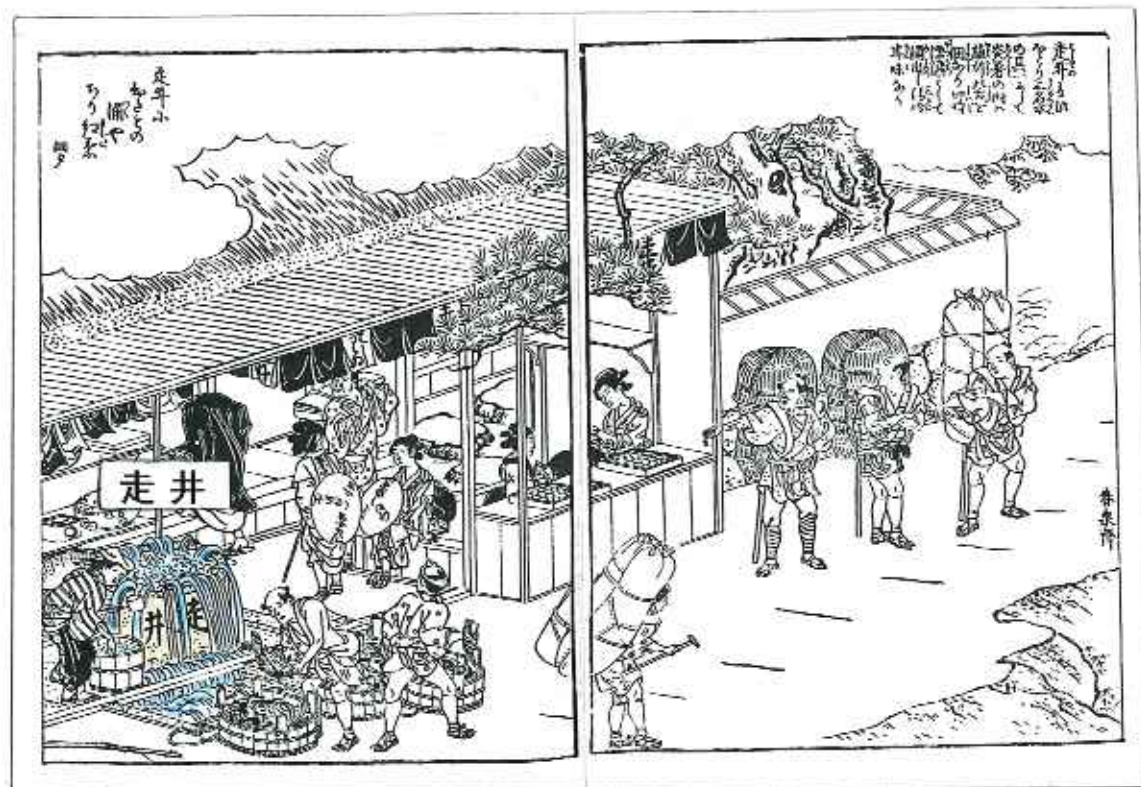
右に入り峠を下る。



峠を下った京阪京津線の大谷駅と1号線。
東海道はこの駅の先で1号線と交わる。



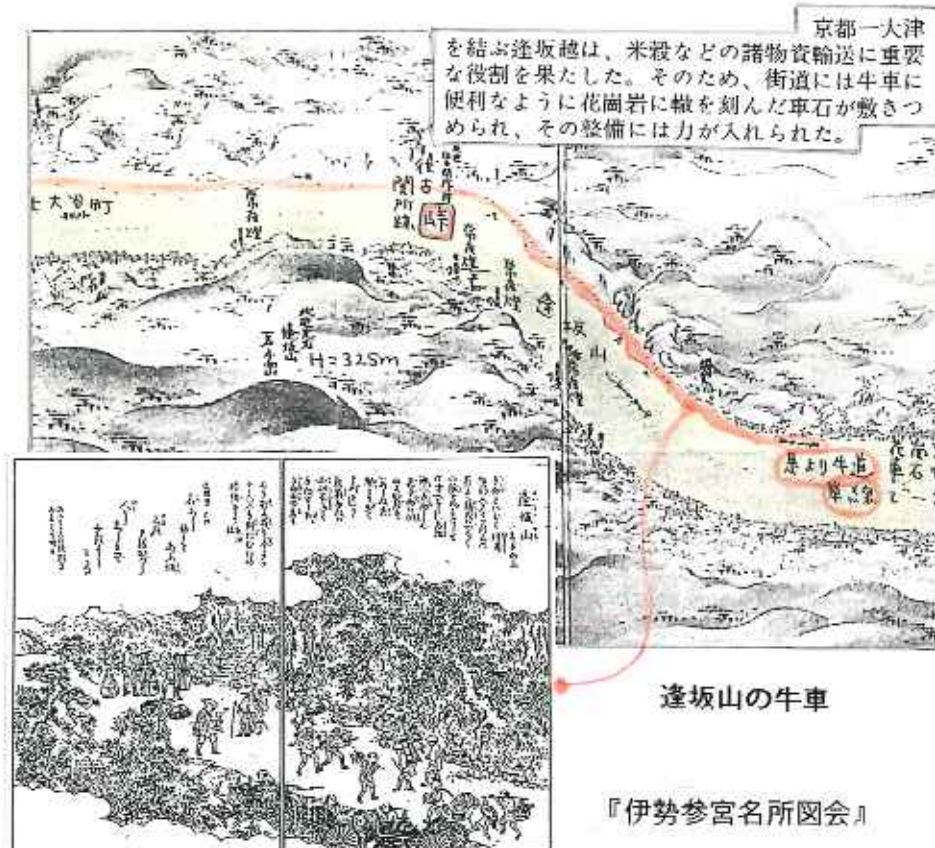
天下の三関の1つ逢坂山の関所跡。



『東海道名所図会』の走井茶屋



上の左下に描かれている「走井」の井戸は今でもある。



月心寺の中に名水「走井」の井戸がある。



東山の都ホテルの前を通る。



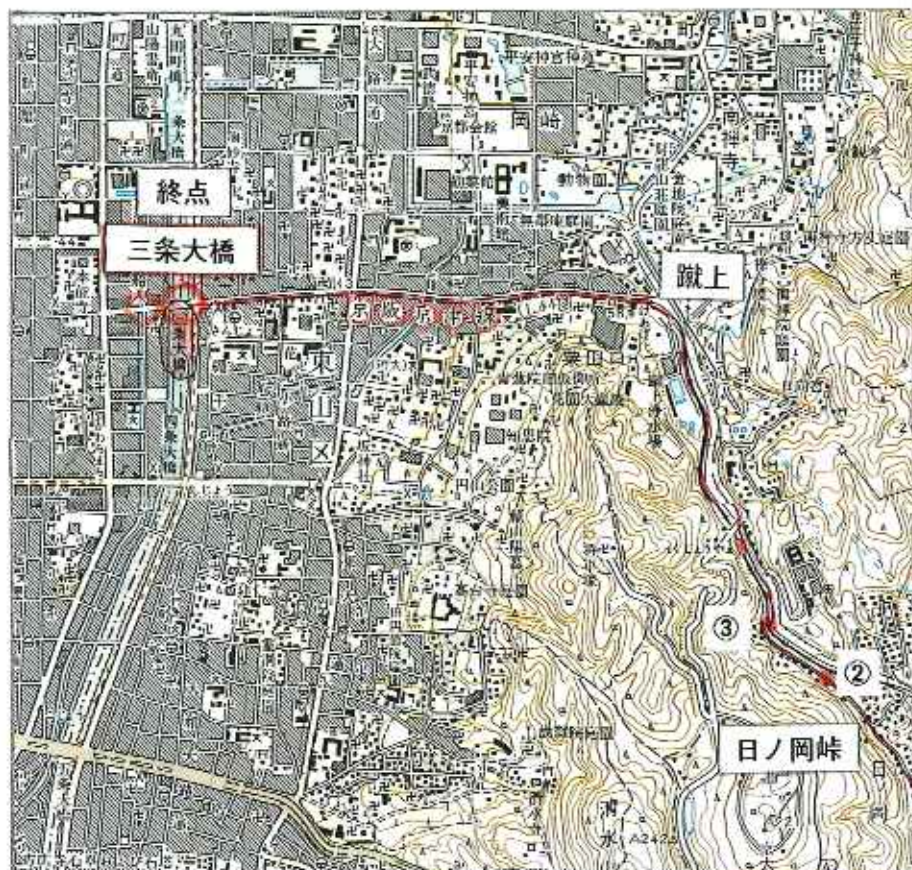
日ノ岡峠の東海道。右に「旧東海道」の標識が建っている。



ついに蹴上まで来た。
三条大橋は目の前だ！！



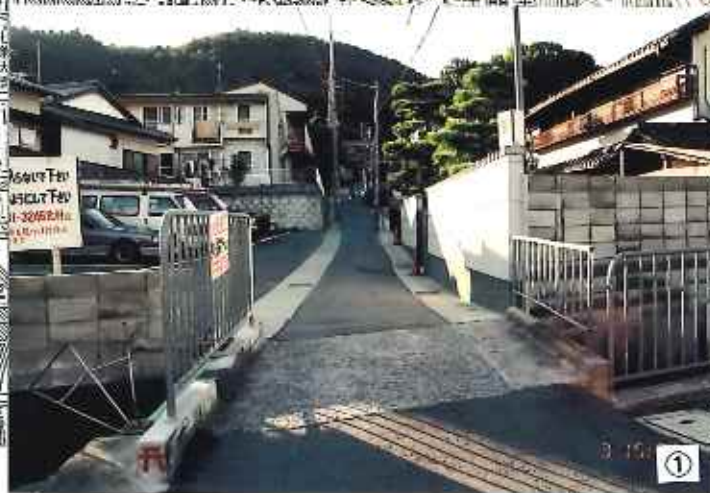
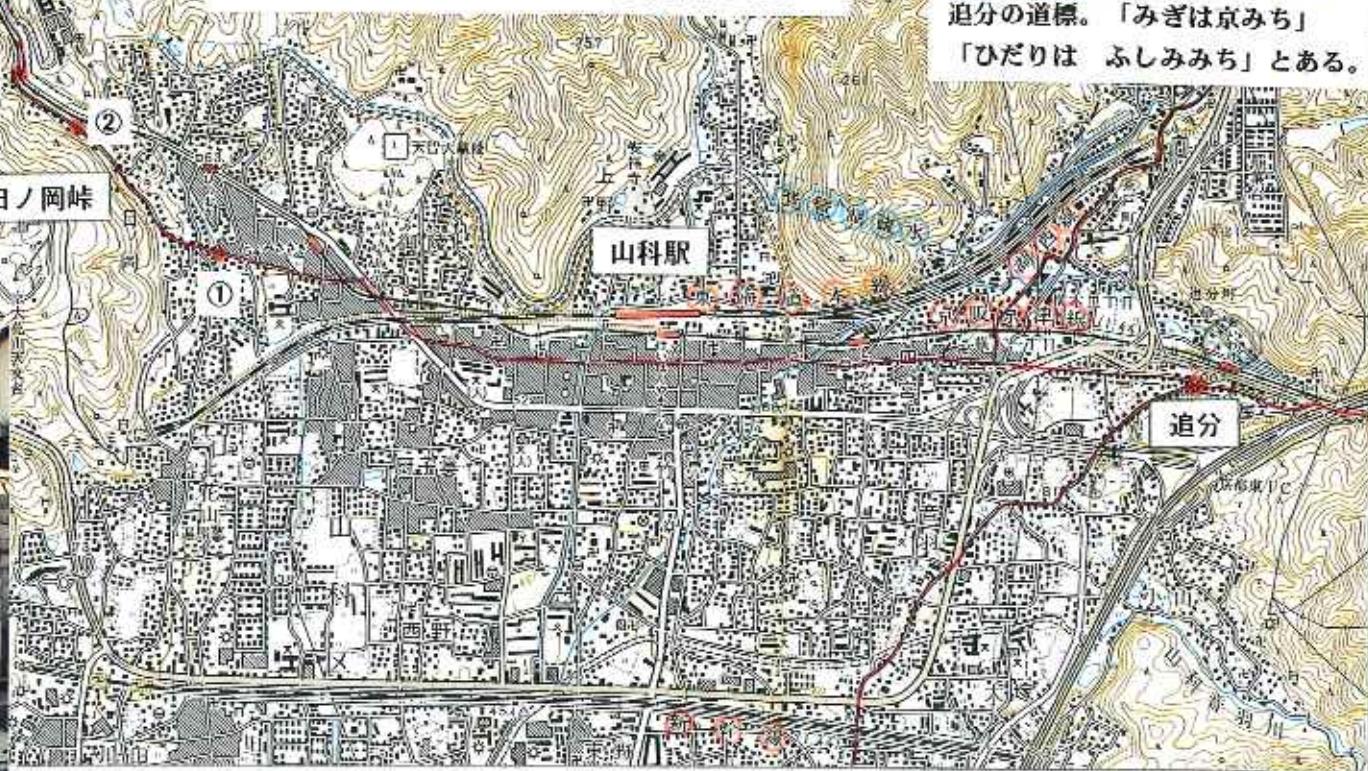
京阪京津線の日岡駅と九条山駅間の踏切を越え、蹴上
に向う。



京都と大阪の分かれ道。右が京、左が宇治・伏見を経て大阪へ13里(52km)の伏見奈良街道。



迫分の道標。「みぎは京みち」「ひだりはふしみち」とある。



最後の登り、日ノ岡峠にさしかかる。

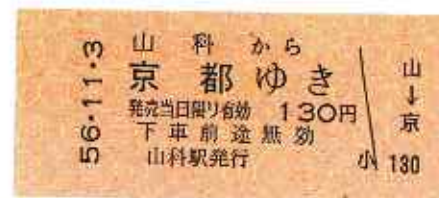


夕方の三条大橋。ついに到着した！！ 1年9ヶ月かかって歩いた。

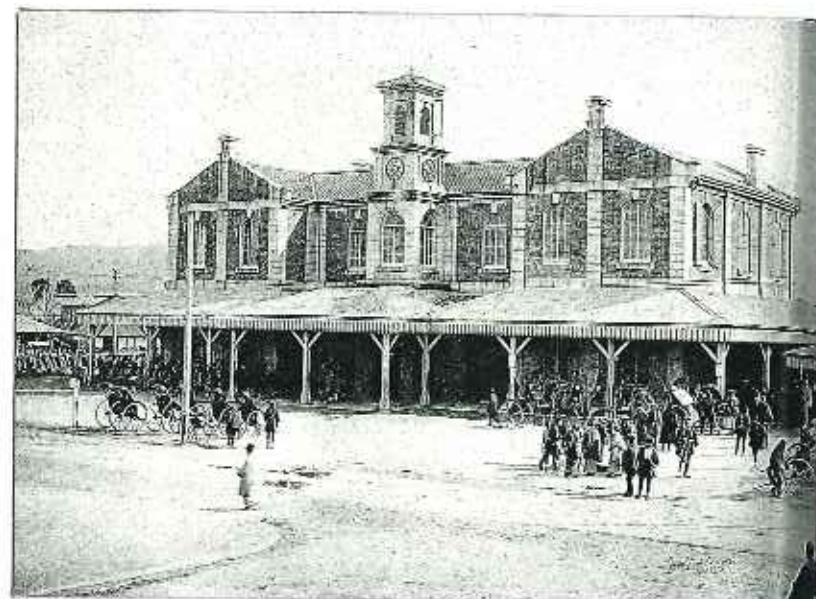


時間は11月3日16時27分で
日が沈もうとしている。

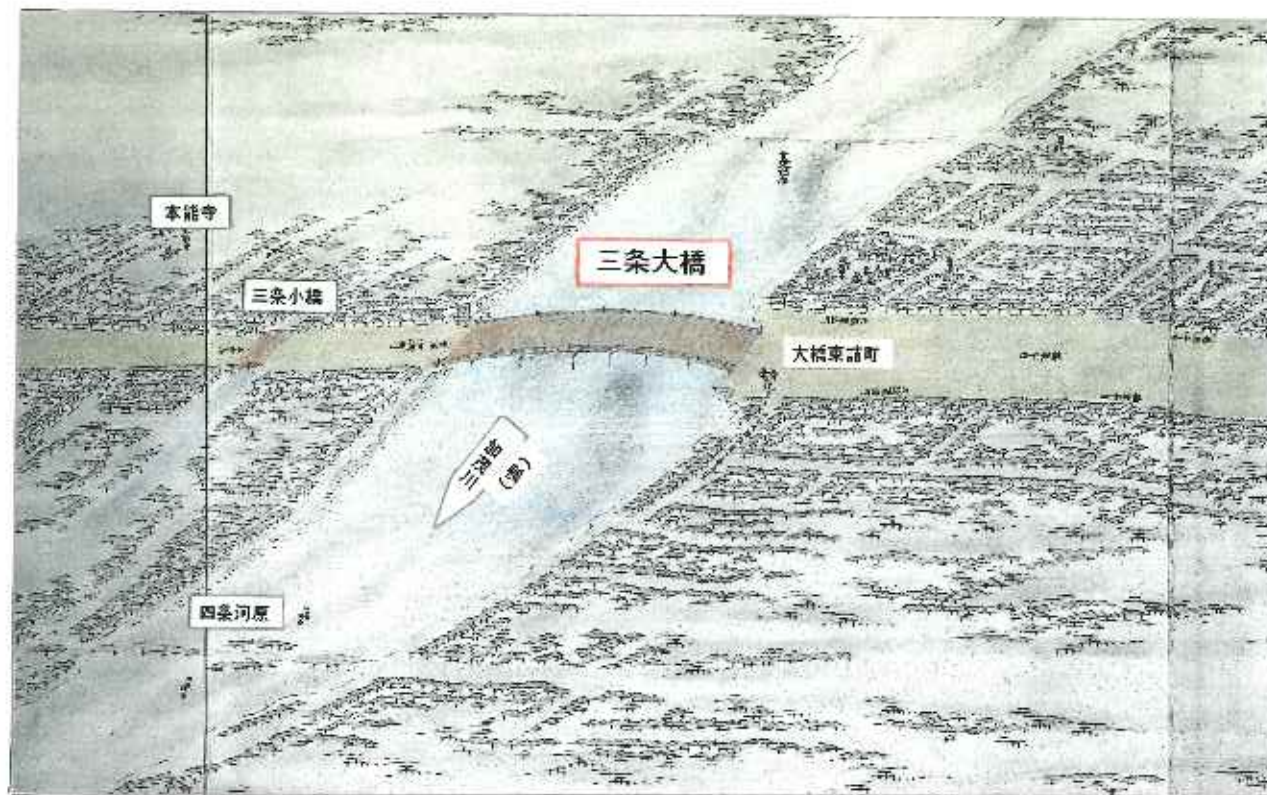
今の橋は、大正10年のコンクリ
ートの橋だが14個の擬宝珠が付
いていて天正18年（1590）
架設した当時のいわれが刻まれて
いる。



J R京都駅。



明治10年開業当時の京都駅。煉瓦造りの2階建てで
時計塔がある。



三条大橋は鴨川に架かる橋で、日本橋から124里29町（492km）あり、橋の長さは60間（108m）幅約4間（7.2m）ある。



広重『東海道五十三次』の大尾 京師



『古代の道』

平安京の羅城門を出発し、三条大橋から日ノ岡峠を越えて山科へぬけた。



大正時代の三条大橋。牛が荷物を引いている。

参考文献

- 東海道分間延絵図 東京美術
 東海道宿村大概帳 吉川弘文館
 今昔東海道独案内 日本交通公社
 東海道名所図会 書林 菊屋喜兵衛
 古代の道 吉川弘文館
 古代日本の交通路 大明堂
 東海道宿駅と其の本陣の研究 日本資料刊行会
 東海道五十三次 内外出版社
 きっぷコレクション「東海道本線全118駅」
 リーダー・スタジエスト社



この本で使用した基本資料



- ※第1巻／品川 池上 新田社 川崎 大師河原 神奈川
- ※第2巻／保土谷 戸塚 藤沢
- ※第3巻／平塚 大磯 小田原
- ※第4巻／箱根 箱根権現
- ※第5巻／三嶋 沼津 原
- ※第6巻／吉原 富士 三保 蒲原 由比 興津
- ※第7巻／江尻 清水 三保 府中 久能 丸子
- ※第8巻／岡部 藤枝 田中城 鳴田
- ※第9巻／金谷 日坂 掛川
- ※第10巻／可睡齋 袋井 見附
- ※第11巻／浜松 頭陀寺 鴨江寺 舞坂 吉羽松 新居
- ※第12巻／白須賀 二川 吉田
- ※第13巻／御油 赤坂 法蔵寺 藤川 舞木八幡
- ※第14巻／岡崎 大樹寺 滝山 是字寺 知鯉鮒
- ※第15巻／鳴海 熱田
- ※第16巻／桑名 七里渡海
- ※第17巻／四日市 渡海
- ※第18巻／石薬師 庄野 亀山
- ※第19巻／関 羽黒 坂ノ下
- ※第20巻／土山 滝掛ノ社 水口 飯道寺山
- ※第21巻／石部 岩根薬師 美ノ松山 西寺 東寺 草津 山田 矢橋
- 第22巻／大津 石山 鹿飛 三井山 叔山 京



原本 天地60cm

東海道五十三次の各宿の人口・家の数・本陣・旅籠の数一覧

天保14年(1843)の頃

『東海道宿村大概帳』

宿 駅 名	人 口 (人)		総家数(軒)	本陣・脇本陣(軒)	旅籠屋(軒) 総数・大・中・小
	男性	女性			
(江 戸)					
品 川	6890	3272 3618	1561	1・2	93・9・61・18
川 崎	2433	1080 1353	541	2・0	72・9・29・34
神 奈 川	5793	2944 2849	1341	2・0	58・4・28・26
保 土 ヶ 谷	2928	1374 1554	558	1・3	67・7・24・36
戸 塚	2906	1397 1509	613	2・3	75・24・20・31
藤 沢	4089	2046 2043	919	1・1	49・10・15・20
平 塚	2114	1106 1008	443	1・1	54・2・29・23
大 磯	3056	1517 1498	676	3・0	66・5・19・42
小 田 原	5404	2813 2592	1542	4・4	95・17・31・47
箱 根	844	438 406	197	⑥・0	36・23・20・29
三 嶋	4048	1929 2119	1025	2・3	74・9・19・46
沼 津	5346	2653 2683	1234	3・1	55・18・21・16
原	1939	957 984	398	1・1	25・0・4・12
吉 原	2836	1328 1504	653	2・3	60・11・14・35
蒲 原	2480	1251 1229	509	1・3	42・9・14・19
由 比	713	356 351	160	1・1	32・1・10・21
興 津	1668	809 859	316	2・2	34・5・18・11
江 尻	6498	3160 3338	1340	2・3	50・6・16・28
府 中	14071	7120 6951	3673	2・2	43・3・21・19
丸 子	795	366 429	221	1・3	24・2・16・6
岡 部	2322	1157 1165	487	2・2	27・3・7・17
藤 枝	4425	2208 2217	1061	2・0	37・5・11・21
島 田	6725	3400 3327	1461	3・0	48・6・7・35
金 谷	4271	2074 2197	1004	3・1	51・15・16・20
日 坂	750	353 397	168	1・1	33・3・22・8

掛 川	3442	1634 1809	960	2・0	30・3・11・16
袋 井	843	279 464	195	3・0	50・5・12・33
見 附	3935	1898 2037	1029	2・1	56・10・24・22
浜 松	5964	2932 3032	1622	⑥・0	94・19・22・53
舞 坂	2475	1254 1221	541	2・1	28・0・15・13
新 居	3474	1776 1698	797	3・0	26・4・7・15
白 須 賀	2704	1381 1323	613	1・1	27・15・2・10
二 川	1468	721 734	328	1・1	38・7・10・21
吉 田	5277	2505 2772	1293	2・1	65・1・13・51
御 油	1298	560 738	316	1・0	62・11・23・28
赤 坂	1304	578 726	349	3・1	62・19・19・24
藤 川	1213	540 673	302	1・1	36・7・16・13
岡 崎	6194	3081 3413	1565	3・3	112・22・28・61
知 題 餅	1620	876 744	292	1・1	35・2・11・22
鳴 海	3643	1792 1851	847	1・2	68・2・10・56
熱 田	10342	5133 5209	2934	2・1	②48・36・33・179
榮 名	8848	4390 4458	2544	2・4	120・8・34・78
四 日 市	7114	3522 3594	1811	2・0	98・22・32・44
石 薬 師	991	472 519	241	3・0	15・7・5・3
庄 野	855	413 442	211	1・1	15・4・6・8
龜 山	1549	790 759	567	1・1	21・0・9・12
関	1942	1008 934	632	2・2	42・10・18・14
坂 之 下	564	272 292	153	3・1	48・2・9・37
土 山	1505	760 745	351	2・1	44・5・18・21
水 口	2692	1314 1378	692	1・1	41・7・18・16
石 部	1606	808 798	458	2・0	32・4・14・14
草 津	2351	1172 1179	586	2・2	72・7・16・49
大 津	①4892	7306 7586	3650	2・1	71・19・27・25

『静岡県歴史の道 東海道』

【東海道五十三次全踏破】

◎東海道分間延絵図と本陣を中心に

平成31年2月28日発行

著者

〒191・0062

東京都日野市多摩平 6の3の15

神谷 政明

TEL・FAX

042・581・5368

製本

〒192・0056

東京都八王子市追分町10の4の101

株式会社 清水工房

《非売品》

※ご意見・感想などありましたらお聞かせ下さい。

